



作者拾遺人年表千四百

撰集抄
於左に記す所ハ西海校の事ありて其の旨を以てしるす

外伝

極川院百首和歌上目録

春

立春

子日

露

鶯

若菜

残雪

梅

柳

早蕨

櫻

春雨

去駒

啼鷹

呼子鳥

苗代

草榮

杜若

藤花

款冬

三月盡

夏

更衣 卯花 葵 一 郵云 葛蒲
 早苗 照射 六月西 盃橋 螢
 蚊遣火 蓮 氷室 泉 荒和枝

堀川院百首和歌上

春

立まゑ

1. 咲花とそらら
 春たりて梢にさへぬ由君はまことさよ花の咲くをえれ 公實
 氷や志波のくさねしら解くを浪守りまをせそ吹 廷房
 三室の谷あやまね立ぬらん雪の下より雪あくるる里 國信
 う野山はなれぬ雪れ消行の浦に古年^{イサ}ままや入鏡 師執
 うらむひこそまはらふさなわ山河の雪ぬれ氷とりわ 後 顯季
1. 春草
 初まきこきゆりな縁風のきりこめてまをらさぬ イサ 志れゆ 仲實
1. 七五
 春やせりけしむるまを人のちる君ゆきぬ世は初ま 俊執

春風よさくらと柳れつこころは君よあひけはあういさく 國信
 さう河のさくらふしむ道ちては浪らま柳のまいさ 師頼
 依保少柳のいさ城深けして心味ふ風うぬまいけ 原季
 わさみらままれ深いさの娘いささ柳のあうてまいさ 仲實
 藤より舟かひいさあさけむせよ川い柳風よみみ家いさ 俊頼
 田方れ山むれ御城めいさやあうらあうま柳れ家いさ 師時
 徳のいさ河さい柳まらけあさくもいさ 和存い浪家いさ 原仲
 春風よ浪らぬいささゆり川い柳木よいさいさ 基俊
 河さい柳れ系はうらうて浪らまれあははいさ 隆源
 春柳の系さわらぬいささ目も吹ら凡のさ河うらいさ 肥後

風吹ハ枝うらるいさま柳の系まま城れ家いさ 紀伊
 春柳の系さわらぬいささ目も吹ら凡のさ河うらいさ 河内

早蕨

いさ 春目れあま紫いささあまらるいさ 次下あわうま城れ家いさ 公實
 卯山よはま明いさ まらるまいさ のあまいさいさ けしめいさ けりいさ 造房
 ま城れ家いさ まらるまいさ のあまいさいさ けしめいさ けりいさ 造房
 武蔵野いささわらぬいさま城れ家いさ 出り下蕨いさ 師頼
 紫れ塵うらうらいさま城れ家いさ 蕨ハおいさ けしめいさ 仲實
 卯山いさま下蕨いさま城れ家いさ 出り下蕨いさ 師頼
 春くまさとあまらるいさ 蕨ハいさ河いさいさ 俊頼

我れし志の形は飼まき釣の平ゆもく遊むわれ
 妻れ形は釣のくまのくしるかははるる等や採採採り
 ともいふく人わたりんまき釣ふいふ釣れわはは
 小笠原まき釣はあつ下帯はを削えわつくつあらの
 丸いむけ玉田換のくれ釣印下帯はわはははは
 あつさるまき釣ははのくまき釣わすわれのくまきり
 小笠原まき釣はははははははははははははははは
 母妻ともいふあつあつあつあつあつあつあつあつ
 じりたがははははははははははははははははははははは
 我れし志の形は飼まき釣の平ゆもく遊むわれ

肥後 隆源 基後 那伴 師時 俊頼 仲実 殿李 師頼 國信

くのえれまき釣も今け生れ遊てはるれの釣と放て
 久根まき釣もまき釣はははははははははははははははは
 河内

陽一鷹

為子のまき釣も今け生れ遊てはるれの釣と放て
 越後まき釣も今け生れ遊てはるれの釣と放て
 まき釣も今け生れ遊てはるれの釣と放て
 五言歌集并に拾遺集のむとん種て何のくま
 今け生れ遊てはるれの釣と放て
 けかれはまき釣も今け生れ遊てはるれの釣と放て
 まき釣も今け生れ遊てはるれの釣と放て

五言 庭房 國信 師頼 仲実 俊頼

海に釣糸もあつた為に子にやまの海流もまゝにあり
 師時
 房のまをさうりつて釣糸は熱く増え花や咲く
 師仲
 世方のいけりやうりく飯房がふたつといふ
 基俊
 浪あつてまのながるにわづらひつて釣糸は海に
 隆源
 小舟の又してや舟をうすつてつらうもの
 肥後
 敷地はさうりやうりつて年次をさうまも
 紀伊
 うらわの海流がうらわかまをくれい花は別
 河内
 嘆子も
 とも川あそつて海の子もつらういふ
 公尊
 思ふ事子えしやうりつて海の子もつらういふ
 道彦

嘆子も

海に釣糸もあつた為に子にやまの海流もまゝにあり
 國俊
 流のまをさうりつて釣糸は熱く増え花や咲く
 師仲
 さうりつて海の子もつらういふ
 秋季
 あそつて海の子もつらういふ
 仲實
 東流のながるにわづらひつて釣糸は海に
 俊頼
 人衆もせぬおれは海の子もつらういふ
 師時
 鳴るいよあつて海の子もつらういふ
 師仲
 には海の子もつらういふ
 基俊
 あそつて海の子もつらういふ
 隆源
 来ぬ人を釣ひし海の子もつらういふ
 肥後

備へてぬるをいふ山へたつ山多社を成れ
此とて流るいふ山へたつ山多社を成れ
河内

苗代

苗代はほろゆり子、水がれを成れ
苗代の山田りともいふあつてゆり子もや
後の男の苗代垣とわせたを今れあつて
小山田あつてのわつて成れ
たやゆり子成れとて苗代の水がれ
がゆり子とて水に流るゝあつて
秋りゆり子のわつて成れ

今そいふれぬるは、
志ありあつて山田り
わつて子う門田り
そのひもり
又山田り
後の男の苗代
あれとて志あり
昔りゆり子の
人いふ山田り

草上蒙

師時 隆原 肥後 紀伊 河内 公家 進房 團代 師執 取巻 仲実 後教

春に花名の白紙おとともづり月ほろ白き津路 紀伊
しらすはよいくさなほし花なれは逢うらん也 菅原 河内

歎冬

我宿成わのれ里井もみよ杉多し冬は山吹花 公實
春物つし針の河の類うくくかえん山吹花 匡房
黒の^越清流川のそわれ浪行り吹く春は歎冬 國俊
豈なく^心の中河のあさみ店ある柳の春の山吹 師教
山吹のむく^中里井もみよ杉多し冬は山吹花 辰季
蛙なく海の池を流る浪をけ春の山吹は^春咲き 仲実
風吹け浪やりのあさみ店ある柳の春の山吹花 後兼

玉の井もみよ杉多し冬は山吹の花を^春宿に感あふ 師時
初めよ春の山吹く^心中もみよ杉多しこの白の^心志^心 初り 辰季
山吹花咲き^春り河はあけ井もみよ杉多し^心 同 基俊
暖かき^心中もみよ杉多し山吹の小橋を^心記は^心 隆源
初めよ春の山吹く^心中もみよ杉多しこの白の^心志^心 初り 辰季
歎冬の時も^心中もみよ杉多し^心 紀伊
春に花名の白紙おとともづり月ほろ白き津路 河内

三月盡

ゆたか^心も^心中もみよ杉多し^心 公實
は^心中もみよ杉多し^心 匡房

卯の鳴くまよひ冬あゆり交約書其心ら社達連 肥後
山分りうと縁とうあふ卯此れわらむとねハ縁しり紀伊
卯心りはのハ君れ心引くそのう地にらゆ山堂 河内

葵

卯の心りあまのまろこれわあひ草ん丁かろひらりわ 公實
大分此光城すひく卯のうまのあひや日親有信 匡房
あつひふはなれ草此名年也卯のまろふにけくゆ 國仁
日親山あつあひの浦わらむいり卯の志くならん 師執
昔よりうまのまわれは葵草うまそいぬのひ卯のらひ 辰季
卯のその葵草城をらむひらうまのまわれまろひのうま 仲英

まろれはまろあまゆら山のねらうれ卯と葵うまろり 俊執
うまゆらもかろまろきいらる卯のまわれあふ縁 師時
祝子うまゆらまろあひ草うまそくえねむ卯のまろ 辰季
あつひ草あつう日卯の心り親はひこいえまひん 基俊
卯のまろまろはけまろあひのうまそぬかま 隆源
卯のまろあつひらる卯のまろねとふらる卯 肥後
年親ゆま松のまろあつひ草まろまろぬま卯 紀伊
あつひ草あつひらるまろまろまろまろまろ 河内
卯

郭

我もい入やまら卯のまろまろまろまろまろまろ 公實

和名もあはれなる松を此の山にわけてと給ふ山郭云
しと志ももそもわきまの今も一守る郭云
かたけもくもれぬらうか何なる久々書は三つとれ
子規がしの松とてそくめあ一と念いおきぬ
我常の松今も此の志の山郭云わらうりるを
お月あは志のて代森の松鶴あつたふ枝の枝毎を
久賢の天暖久山おれおれ玉ゆりておれ
ありて守護の松の松鶴云んもる松祥也
一と念ふ三つ高の松おれ松云思ぬ山は松の松
思ひ松よ人徳なるもく何なるまの松も念松と

匡房

國信

師乳

松季

仲実

俊成

師時

松伴

基俊

隆源

山崎く松とてあはれ六郭云思ふう一と念ふ松鶴云
松鶴云山崎く松とてあはれ六郭云思ふう一と念ふ松鶴云
松鶴云山崎く松とてあはれ六郭云思ふう一と念ふ松鶴云
松鶴云山崎く松とてあはれ六郭云思ふう一と念ふ松鶴云

肥後

紀伊

河内

菖蒲

あめめきよよと柳ふ生うおる松鶴云う一人の月やほほ
五月あは志の松鶴云思ふう一と念ふ松鶴云
松鶴云山崎く松とてあはれ六郭云思ふう一と念ふ松鶴云
松鶴云山崎く松とてあはれ六郭云思ふう一と念ふ松鶴云

公實

匡房

國信

師乳

松季

仲実

ひとつらむの藤やのむらぬはてはむん多の
 巨房
 こぞあはれはむの藤もむらぬあまもむらぬおまはる
 國位
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 師教
 久美のむらぬあまもむらぬあまもむらぬあまも
 那季
 重なるむらぬあまもむらぬあまもむらぬあまも
 仲夏
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 俊教
 いふよはむらぬあまもむらぬあまもむらぬあまも
 師時
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 那件
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 基俊
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 隆源

藤垣草花と藤もむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 肥後
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 紀伊
 こぞあはれはむの藤もむらぬあまもむらぬあまも
 河内
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 通橋
 常あはれはむの藤もむらぬあまもむらぬあまも
 公實
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 定房
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 國信
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 師教
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 那季
 八月ぬいしのむらぬあまもむらぬあまもむらぬ
 仲夏

まなすのあそびの妻の絶せりかきも水もよれも
ゆきゆく水清せぬ水もあまのうらみとて海へ引渡り
まなすのうらみ代のある水もあまのうらみとて海へ引渡り
ゆきゆく水清せぬ水もあまのうらみとて海へ引渡り
まなすのうらみ代のある水もあまのうらみとて海へ引渡り
ゆきゆく水清せぬ水もあまのうらみとて海へ引渡り
まなすのうらみ代のある水もあまのうらみとて海へ引渡り
ゆきゆく水清せぬ水もあまのうらみとて海へ引渡り

泉

六月のあそびの清も結りすいあまのうらみとて海へ引渡り

公重様とてみかすに結すよあまのうらみとて海へ引渡り
清も結りすいあまのうらみとて海へ引渡り
まなすのうらみ代のある水もあまのうらみとて海へ引渡り
ゆきゆく水清せぬ水もあまのうらみとて海へ引渡り
まなすのうらみ代のある水もあまのうらみとて海へ引渡り
ゆきゆく水清せぬ水もあまのうらみとて海へ引渡り
まなすのうらみ代のある水もあまのうらみとて海へ引渡り
ゆきゆく水清せぬ水もあまのうらみとて海へ引渡り

塘川院百首和哥中目錄

秋

立秋

七夕

荻

女郎花薄

荻萱

蘭

荻

鴈

鹿

露

霧

橙

駒迎

月

掃衣

虫

菊

紅葉

九月盡

冬

初冬	時雨	霜	露
寒蘆	千鳥	沙	水鳥
神樂	鷹鳥狩	炭竈	爐火
		除夜	細代

堀川院百首和歌中

秋

五秋

中々と葉よ吹夕暮此風なれと秋を自祛涼なりなり 公實
 朝やうと此秋のまのりせむお建八心のみくは涼なり 匡房
 結縷くくく憂神のさむきか我寝やうらや秋の 國信
 所りよはつらもたう火吹凡の喜にそ秋はるまき 師教
 物まよ此秋よ凡の涼も岸鳩うく秋よ成や志ねん 歌季
 秋をよいさきの山の山物うく被涼く吹 山吹 休安
 中々あつは後日せりともと物うり此凡 世 秋 後

穢女の逢瀬のなまこふりなむとていふの思ぬわらう
紀伊
ふくくとと秋斗や七夜枕よりられ別れはなれん
何日

秋

いよもなき酒秋志をれち姫の静い道行すりも娘がけり
公貴
川あま鹿の志をみるきてより浮てなれぬ秋秋の花
匡彦
秋秋はまきいふもぬをたれと秋めつと秋は秋は
國信
二葉よりわさこふ鹿の志を秋とすのじり秋花咲
師執
秋はむ志をいふ風ううめ地落もらうと秋はううと秋
秋季
秋はむ志をいふささ秋の志を秋とせささ秋の志を
仲実
秋秋の志を秋の志を秋とせささ秋の志を秋とせささ
後秋

師あれいとも秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
師執
あさういよみさうともあはれ白落れ秋の秋はううと
秋仲
秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
秋後
綿のやいふと秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
隆源
あめゆひのううと秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
肥後
あめゆひの志を秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
紀伊
あめゆひの志を秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
河内
女師花
あめゆひの志を秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
公貴
あめゆひの志を秋はううと秋はううと秋はううと秋はううと
匡彦

夕されい復見の里れ女島花たてて暮きこつら社せれ 國信
露志あはれわいのこく女島花一あつおひ神海 師教
秋旁にこれのちめ女島花秋夜は白く秋思よ 秋季
いあに今も又らん女島花あのおれもくわの時も 仲美
こ古歌のうられ畏のときあつたれく露よ可成り 俊教
わくあつあおおの野よ生あつて風よきつて女島花 師教
夕霧よ白くれつたもせしはれ夜よて前よいん 秋伴
あつて野のちもあつぬ秋風よあつれくこ女島花 基後
折はよ秋よの白露よぬ道衣よ千より女島花 隆源
あつ今もあれり宿れ女島花獨るあけこ秋の夕くれ 肥後

女島花白お野今は流し橋の川へさの地社せれ 紀伴
秋のよ秋露なつれとも女島花こ野毎にのそえく 河内

薄

秋風よとくひして秋のあつ野へさつ女島花色よ師 云實
花すよきやよせくも秋此れそ色秋花はさ満り 匡房
これ薄よの初ぬ秋風よし朝志もなこつ朝志あつ 國信
ひ道よらそ志の浅薄くくあにるひの風の吹 師教
風吹かふかの薄やせそ露うら拂神よそある 秋季
う露をいよと鶉なく野も花薄秋よまひくとく 仲美
もか薄薄そよのいれ浅くうけて秋よも人さ 俊教

一々不まのひらまのひけ花落さ秋風の定なり見 師時
 見よふにわははひひと志の落風はええそまはり 那仲
 うら鳴きこれらの志の落許をうらう袖よ出らん 基俊
 花落中のく神とせぬの秋の静ら秋ゆり引られ 隆源
 夕暮の静まにまは花落やのふ許をまのく今迄 肥後
 秋風にたひくもむと夕まこれ許神とそあはれ 紀伊
 乃のよ偏ゆく落はけくらえくしよひも家に静るを 河内
 秋をよまひく初をさくら思ふ下静をよた吹ふとて 云々
 うられに叶ぬはゆりぬおれはは後かるもの静るを 匡房

新萱

那く毎よ志とるははくみらるは許るをえつて 國信
 好くれはあひをうらう静るもの下静を人のゆたりを 師執
 うらう静る場の初のおもむれ思ひみらるは秋の夕暮 那季
 うら静や静風よ志とくうら静の志とるもの静る 仲久
 朝毎よたてのひははれまらるをえつて君のみ静る 俊執
 うら静よなれはわらわら新萱ははのゆもなき静る 師執
 かつるも我の静るさうらあ秋の静風よえれらる 那仲
 秋風よるあうらうもははまらん下静るをえつて 基俊
 うら静も秋あれらるやのるはははく風を 肥後

右
あ

雲うれ名のり城つゆの宿の名おまうと枯の煙 師時
春枯しゆくは宿も宿もいづれにほれおれおらるらん 取仲
宿夜よめりていづか初宿の我のいづれに宿をくねと 基後
羽うろこ雲うれにおきり初宿のいづれに宿をくねと 隆源
初宿のいづれに宿をつけて雲おれいづれに宿をくねと 肥後
ことよりや梅ののちをそなう宿の暮れは宿のいづれに宿をくねと 紀伊
雲うれおらるるのいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと 河内
鹿
拙るるるや梅ののちをそなう宿の暮れは宿のいづれに宿をくねと 公貫
かよのいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと宿をくねと 延房

書きよとて鹿のいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと 國信
又る書あはれは宿のいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと 師時
よもいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと宿をくねと 取仲
高初れ尾よれは宿のいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと 仲実
よもいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと宿をくねと 後執
いづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと宿をくねと 師時
世中初れは宿のいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと 取仲
各々いづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと宿をくねと 基後
よもいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと宿をくねと 隆源
三三山初れは宿のいづれに宿をくねと宿をくねと宿をくねと 肥後

多きいさく教^{そと}ては中^{ちゆう}掉^{てう}鹿^かの書^{しよ}意^いて^て一^{いつ}よ^よは^は馬^ば紀^き行^{かう}
を^を迎^{むか}の^のま^まの^のつ^つさ^さに^に明^{めい}鹿^か入^いり^りよ^よは^はる^るり^りぬ^ぬま^ま河^か内^{ない}

五落

山^{さん}く^くれ^れ風^{ふう}よ^よ志^しは^は白^{はく}露^ろの^の西^{せい}ぬ^ぬさ^さう^うる^るま^まの^の幸^{さい}く^く公^{こう}實^{じつ}
月^{げつ}草^{そう}花^から^ら夜^やの^のま^まん^ん世^せに^に成^なる^るは^はあ^あた^た白^{はく}露^ろ匡^{きやう}音^{おん}
露^ろよ^よけ^けす^す野^の入^いと^とい^いゆ^ゆあ^あら^らに^にあ^ある^るま^まの^の志^しの^の志^し國^{こく}信^{しん}
志^しの^のめ^めの^の物^{ぶつ}露^ろの^のま^まに^に淺^{せん}芽^げ生^{せい}は^はあ^あつ^つぬ^ぬる^るま^ま草^{そう}花^か系^{けい}師^し教^{かう}
凡^{ぼん}吹^ふは^は先^{せん}今^{こん}も^もち^ちる^るい^いく^く淺^{せん}芽^げ生^{せい}は^はい^いつ^つて^てあ^あら^らん^ん秋^{あき}の^のま^まの^の露^ろ季^き
白^{はく}む^むる^る庭^{てい}よ^よ志^しけ^けり^りた^た世^せと^と志^しの^のた^た行^{かう}る^るま^ま地^ちの^の物^{ぶつ}露^ろ仲^{ちゆう}笑^{かう}
也^や露^ろ也^や物^{ぶつ}重^{じゆう}露^ろを^を考^{かう}ま^まして^{して}孫^{そん}小^{せう}秋^{あき}は^は志^しあ^あれ^れに^にあ^あり^り後^{こう}乳^に

終^{しゆう}ね^ねれ^れも^もあ^あら^らう^うら^らう^う世^せ月^{げつ}の^の光^{こう}は^はゆ^ゆき^きま^まれ^れ露^ろ師^し時^じ
小^{せう}原^{げん}東^{とう}志^し草^{そう}花^かの^のま^まに^にあ^ある^る白^{はく}露^ろを^を枯^こら^ら物^{ぶつ}母^ぼあ^ある^る露^ろ乳^に仲^{ちゆう}
浅^{せん}芽^げ生^{せい}成^なる^るの^のま^まに^にあ^あら^らん^ん世^せ露^ろを^を考^{かう}ま^まして^{して}孫^{そん}小^{せう}秋^{あき}は^は志^しあ^あれ^れに^にあ^あり^り後^{こう}乳^に
世^せ露^ろを^を考^{かう}ま^まして^{して}孫^{そん}小^{せう}秋^{あき}は^は志^しあ^あれ^れに^にあ^あり^り後^{こう}乳^に
白^{はく}露^ろと^とい^いは^はら^らん^んも^も物^{ぶつ}を^をい^いは^はれ^れて^て花^か毎^{まい}も^もあ^ある^る露^ろ乳^に仲^{ちゆう}
月^{げつ}の^のま^まに^にあ^あら^らん^ん世^せ露^ろを^を考^{かう}ま^まして^{して}孫^{そん}小^{せう}秋^{あき}は^は志^しあ^あれ^れに^にあ^あり^り後^{こう}乳^に
朝^{あさ}日^ひは^は小^{せう}原^{げん}の^のま^まに^にあ^あら^らん^ん世^せ露^ろを^を考^{かう}ま^まして^{して}孫^{そん}小^{せう}秋^{あき}は^は志^しあ^あれ^れに^にあ^あり^り後^{こう}乳^に

音

麓^{ろく}と^とは^はら^られ^れ河^か内^{ない}の^のま^まに^にあ^あら^らん^ん世^せ露^ろを^を考^{かう}ま^まして^{して}孫^{そん}小^{せう}秋^{あき}は^は志^しあ^あれ^れに^にあ^あり^り後^{こう}乳^に
河^か内^{ない}の^のま^まに^にあ^あら^らん^ん世^せ露^ろを^を考^{かう}ま^まして^{して}孫^{そん}小^{せう}秋^{あき}は^は志^しあ^あれ^れに^にあ^あり^り後^{こう}乳^に

石井の善いられと夕暮れ夜のこゝろはぬらりくせ丸 國信
 吉野川海りよめと夕暮れやるせの海のもの影 師光
 白旗の善いなりと夕暮れかきつらむら門の里 鳳亭
 石田やうりたりこれ銀よもくろり鶴居よめぬ善 仲實
 船自よん水川の善いし清くしけりぬ身よ世は元 俊光
 秋暮の松山引よらぬれと下さしこれ善のえすり 師時
 夕暮よらやまよん夕暮木川松山人も友よりなり 鳳亭
 わらぬよ夕暮れよのこゝろはぬらりぬらり 甚後
 河野に渡ぬしよぬらりこののよのよ 隆源
 善いよらむらぬらり夕暮れよ夕暮れよ車よらやまよ 肥後

秋暮の善いなりと夕暮れよのこゝろはぬらりぬらり 甚後
 いふせんぬらり夕暮れよ夕暮れよ夕暮れよ 河内

権

ありとれありありと権の面教さぬ花をえはる 鳳亭
 白旗の善いなりと夕暮れよのこゝろはぬらりぬらり 師時
 山里の善いなりと夕暮れよのこゝろはぬらりぬらり 國信
 わらぬよ夕暮れよ夕暮れよ夕暮れよ夕暮れよ 師禎
 海風よ夕暮れよ夕暮れよ夕暮れよ夕暮れよ 鳳亭
 あらたのこゝろみつと夕暮れよ夕暮れよ夕暮れよ 仲實
 権れとれの善いなりと夕暮れよ夕暮れよ夕暮れよ 俊光

あさうのむねは深井浦もたかむにせき秋の院 師時
 秋の院を喜ばしう記よあさうのふみり権んぬ 弘仲
 むいれ此處もさぬらたりてしし朝蟻引きつる 基俊
 わさかへはうめさう花はゆふかすこの園は隆源
 いれどうたりてかろく今日新約書はあはれ権花 肥後
 志のめよたえ川に城をじ権の目け給ふに記伊
 ゆきそてみ 鳴りの露もたこぬら面うけりせぬ権花 河内
 遠坂の雲はかき秋の由れなきの物とじゆいり 公貴
 多岐北雲の夕霧ゆうれんさやがもみあから月の 宣房

駒込

遠坂の雲はかき秋の由れなきの物とじゆいり 公貴
 多岐北雲の夕霧ゆうれんさやがもみあから月の 宣房
 遠坂の雲はかき秋の由れなきの物とじゆいり 公貴
 多岐北雲の夕霧ゆうれんさやがもみあから月の 宣房
 遠坂の雲はかき秋の由れなきの物とじゆいり 公貴
 多岐北雲の夕霧ゆうれんさやがもみあから月の 宣房
 遠坂の雲はかき秋の由れなきの物とじゆいり 公貴
 多岐北雲の夕霧ゆうれんさやがもみあから月の 宣房
 遠坂の雲はかき秋の由れなきの物とじゆいり 公貴
 多岐北雲の夕霧ゆうれんさやがもみあから月の 宣房

教志ぬ君りつあよと月約はく^{一世}の秋は^よ遠坂の美^記依
イ実秋 遠坂の秋の村を^イあまげ^イこふ^イ浦されやま^イん^イ田^イ島^イ興^イ河^イ内

月

山の^イ程^イと^イふ^イこ^イき^イる^イら^イれ^イ絶^イる^イり^イは^イも^イる^イ目^イろ^イた^イり^イき^イふ^イ舟^イ
さ^イや^イか^イり^イ月^イら^イる^イ秋^イの^イ程^イれ^イく^イあ^イら^イ秋^イは^イれ
ゆ^イも^イる^イ遠^イの^イは^イあ^イゆ^イる^イれ^イと^イ屋^イと^イ月^イの^イ秋^イは^イれ^イる^イ 匡房
嵐^イ吹^イい^イゆ^イの^イ山^イは^イ雲^イと^イれ^イく^イた^イ井^イの^イ浦^イま^イと^イあ^イる^イ月^イ 國信
天^イの^イ東^イを^イ約^イ月^イを^イ詠^イれ^イと^イ秋^イの^イあ^イよ^イの^イ子^イを^イ集^イせ^イ 師乾
あ^イの^イ瑞^イよ^イと^イふ^イ月^イの^イけ^イ約^イを^イ詠^イる^イ我^イを^イ合^イさ^イう^イめ^イそ^イ 乱香
流^イも^イ小^イなる^イと^イは^イな^イま^イ約^イゆ^イり^イ舟^イは^イ棹^イは^イ舟^イは^イ 仲夏
木^イ板^イの^イを^イ傾^イと^イふ^イな^イの^イり^イと^イ元^イ月^イの^イと^イあ^イの^イ物^イ 俊龍

雲のちこあふあ^イと^イあ^イの^イ川^イは^イら^イる^イ月^イは^イ秋^イの^イ後^イと^イハ^イ 師時
か^イも^イあ^イら^イら^イの^イ水^イは^イあ^イま^イれ^イと^イ屋^イと^イ月^イの^イ秋^イは^イれ^イる^イ 乱仲
秋^イの^イは^イ園^イと^イふ^イ月^イの^イ秋^イの^イあ^イゆ^イあ^イる^イ山^イの^イ瑞^イは^イ 琴後
い^イく^イと^イも^イ月^イは^イら^イと^イと^イあ^イれ^イる^イと^イあ^イら^イん^イ更^イ科^イの^イ山^イ 隆源
月^イ秋^イは^イ今^イた^イめ^イた^イ思^イひ^イと^イゆ^イた^イ後^イか^イと^イあ^イら^イなり^イ 肥後
久^イ世^イの^イ月^イは^イら^イと^イあ^イれ^イる^イと^イあ^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イ 紀伊
あ^イら^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イ 河内

持衣

し^イつ^イと^イも^イ妹^イう^イら^イん^イ唐^イ衣^イと^イあ^イの^イ着^イれ^イる^イに^イあ^イら^イと^イ 云實
衣^イう^イら^イの^イね^イと^イう^イあ^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イと^イあ^イら^イる^イ 匡彦

金づく藤八門をせられたる事すう初ハ敷たしりうわ 途房
あまのイヤウ鏡乃イダすうわの志カキてて山しよと敷た道 國信
みらねく人も初ぬ山イミ本冬の下午う敷事よ 師執
命よ敷事ありう我神と衣よ包じ玉うやかん 取事
さよ敷事今月今月せせんや扶のうれよ敷事ありや 仲実
急とてひひもくもぬ常あれハ敷たしりうイカ後取
よ敷事と敷事ありう山雲ハ昔の道よ種えとえう 師時
あまの橋の板やの書ひう敷事ありう冬えとひひ 取仲
板あり敷事ありう我床ハぬきなりう玉敷事 基後
ゆらぬ人ありうか魂の敷事の書ハぬきなりう 隆源

板あり敷事ありや白むやうの衣のりえ可ぬん 肥後
う敷事し敷事ありう敷事あり山松うの凡敷事イカ 紀伊
ぬきなり白むとて心ひうう木の葉ハよやぬ敷事 河内

雷

金四
ゆすぬぬ板乃イたし江ねく敷事あり公方敷事 公實
いよぬぬ束の松山浪こは筆ハ初名清も社すれ 匡房
吉野山をの河上雷ありと燈や民の家ありん 國信
う敷事玉ゆけ敷事と海雷のい重橋ハぬ敷事 師執
志ん名の路の坂を越えぬし出際う筆ふ敷事 隆源
端をく指さくさうん山の志う管志のい敷事 仲実

かふも海若くは来し凡吹かきし海の花を統
紀後
き方よ家おやすし難所江の若新小舟志付
紀信
余によのこみし其の福を極くかりよふも公海
河日

千名

志の浦の松吹比のこしに夕浪子名ちあなこ
公實
月報のゆるれ浦と漕行か子名志たなくわけぬは匡房
友子名もしきた^{イハヒ}と^{イハヒ}海と沖乃白洲は塩や満らん國信
小成さ^{イハヒ}海とゆるの浦のと海風と浪子名も志^{イハヒ}に^{イハヒ}師靴
東^{イハヒ}ら^{イハヒ}に^{イハヒ}の志^{イハヒ}ち^{イハヒ}り^{イハヒ}く^{イハヒ}掛^{イハヒ}す^{イハヒ}り^{イハヒ}こ^{イハヒ}し^{イハヒ}紀^{イハヒ}河^{イハヒ}系^{イハヒ}に^{イハヒ}凡^{イハヒ}吹^{イハヒ}
橋^{イハヒ}ち^{イハヒ}も^{イハヒ}ら^{イハヒ}の^{イハヒ}海^{イハヒ}と^{イハヒ}む^{イハヒ}ら^{イハヒ}に^{イハヒ}曉^{イハヒ}け^{イハヒ}く^{イハヒ}あ^{イハヒ}も^{イハヒ}な^{イハヒ}り^{イハヒ}師靴
仲実

あなも吹小鶴う襖の浪子名も若くは波よあさりなを後乳
大井川にん我はたあなそし^{イハヒ}た^{イハヒ}よ^{イハヒ}さ^{イハヒ}わ^{イハヒ}ら^{イハヒ}も^{イハヒ}鳴^{イハヒ}也^{イハヒ}師時
凡^{イハヒ}じ^{イハヒ}も^{イハヒ}わ^{イハヒ}る^{イハヒ}あ^{イハヒ}ん^{イハヒ}志^{イハヒ}ら^{イハヒ}る^{イハヒ}名^{イハヒ}も^{イハヒ}か^{イハヒ}の^{イハヒ}流^{イハヒ}子^{イハヒ}名^{イハヒ}志^{イハヒ}六^{イハヒ}
成^{イハヒ}件^{イハヒ}
若^{イハヒ}く^{イハヒ}浪^{イハヒ}激^{イハヒ}も^{イハヒ}な^{イハヒ}ぬ^{イハヒ}と^{イハヒ}保^{イハヒ}川^{イハヒ}の^{イハヒ}志^{イハヒ}ら^{イハヒ}る^{イハヒ}か^{イハヒ}の^{イハヒ}名^{イハヒ}志^{イハヒ}
表^{イハヒ}後^{イハヒ}
よ^{イハヒ}も^{イハヒ}し^{イハヒ}と^{イハヒ}友^{イハヒ}や^{イハヒ}あ^{イハヒ}ら^{イハヒ}ぬ^{イハヒ}く^{イハヒ}は^{イハヒ}か^{イハヒ}の^{イハヒ}川^{イハヒ}系^{イハヒ}も^{イハヒ}あ^{イハヒ}る^{イハヒ}
澄^{イハヒ}源^{イハヒ}
白^{イハヒ}浪^{イハヒ}も^{イハヒ}あ^{イハヒ}ら^{イハヒ}り^{イハヒ}て^{イハヒ}浪^{イハヒ}子^{イハヒ}名^{イハヒ}志^{イハヒ}の^{イハヒ}ま^{イハヒ}ら^{イハヒ}く^{イハヒ}あ^{イハヒ}ら^{イハヒ}鳴^{イハヒ}也^{イハヒ}
肥^{イハヒ}後^{イハヒ}
浦^{イハヒ}の^{イハヒ}上^{イハヒ}の^{イハヒ}浪^{イハヒ}は^{イハヒ}な^{イハヒ}ぬ^{イハヒ}る^{イハヒ}浪^{イハヒ}ち^{イハヒ}ら^{イハヒ}く^{イハヒ}ら^{イハヒ}鳴^{イハヒ}也^{イハヒ}
紀^{イハヒ}信^{イハヒ}
浦^{イハヒ}も^{イハヒ}千^{イハヒ}名^{イハヒ}の^{イハヒ}志^{イハヒ}ら^{イハヒ}る^{イハヒ}と^{イハヒ}あ^{イハヒ}ま^{イハヒ}の^{イハヒ}志^{イハヒ}ら^{イハヒ}る^{イハヒ}は^{イハヒ}わ^{イハヒ}ら^{イハヒ}
紀^{イハヒ}信^{イハヒ}

氷

東新
浦も若のしははあぬらまはらうやう下も志が志

河うれは葉つと車うすう沙のくさひ冬かぬせし 景春
 下ばらむい何しの米あつた朝露の水成吸くふふ 國信
 山室のよしの瓦のきくれ八細首川うま川沙けり 師執
 浪あてう岩ハ傍をくくらし志く沙用うふ山川の水 弘孝
 志ううるいたのゆ^條系凡くても池の味志なり 仲實
 法くおて浦の波あまの雲るれか下流へて雲く波 俊頼
 山室の岩の下あ法くくおく岩うつ浪の音もたも 師時
 山門の沙うまうり杉名れ羽凡のさ浪名もせぬそ 弘伴
 鳴名かうれぬさうりく朝みすは若竹の沙流たたり 基長
 水くくまは閉^閉一そ日やうけひまきうあ八粒は 澄原

久あうく沙やあひくさうつらん音粒よらり公實
 奥山のあうさうくあむことや落る^落海の音もき 紀伴
 あういさう沙さうらんたうれもなぬ山川水 河内

水島

朝戸朝く揚敷みる池あうよさるり名^鴨のひれく語 公實
 あま名^名のあまの床うさこ枕うま田ひ^田浦う^浦橋さ 匡彦
 水名れさうく^く竹のさみ沙うれくし鳴のうくめが 國信
 池あにすれわう^わ響の羽凡は若竹の味さや語^語 師執
 じ色流く^く霧やわく^わ後水名^名村^村く^く羽名^名の粒^粒は^は 弘孝
 たり^りか^かつ^つ件^件よ^よと^とひ^ひお^おる^るあ^あら^らじ^じ村^村さ^さく^く羽^羽凡^凡の^の粒^粒は^は 仲實

志われ若くもけり不にわさりは鴨はき世に清て
 川せのあらしゆれをうたひすり隠るる羽よ霧や
 水多ハ霧のさ萩重ささくさゆりあけけり
 もみ川さひいせれともあまのめりい
 浦山一志の世みたるも有ぬさくわくもさうふ
 池多にせれくわらぬる水多の羽凡は海やささく
 池水のうたひぬくわくわく怒のつらひのたふぬ
 なるものうもささひのうたあさ浪のたささ
 細代
 ものけの年のより後た志ぬか細代よりかや強ん
 云実

作良 師時 那仲 基俊 隆源 肥後 紀伊 河内

さ海やを心の海のおる本に浪ともわいさ
 田上の浪たわらふ本は幾つ我のさへす
 細代本に瑞珠やうと田上のその松山に本を
 無火のうとあまは氷臭の心細代のお城
 川吹田上川のわらふ本は霧のお葉もり
 けをまたつらむ細代の本葉はく幾へとん
 せ莫らうとさひようまは田上も
 あふさく田上川のわらふ本のうらひ
 山の上の本葉はくうら川の細代は
 鳥浪のむとぞおとさつら細代はひのち
 隆

住房 國信 師換 那季 仲美 俊光 那仲 基俊

信持する野中の木石の志されば
吹散せしむのすけ八重をた日つきの
信持すまじのたふそは踏志く
志くゆりの散し捲うに
や散毛のすまはの勢を
日影さひごよのあちけ
信持すまじのたふそは踏志く
志くゆりの散し捲うに
や散毛のすまはの勢を
日影さひごよのあちけ
信持すまじのたふそは踏志く
志くゆりの散し捲うに
や散毛のすまはの勢を
日影さひごよのあちけ

運信

國信

師頼

歌集

仲実

後教

師教

歌仲

春後

澄源

君より白子の書をあてて
沙撈今う成り給の書
筆書れ給る此給のち
何日

炭竈

新とく書あてて
浦崎うねた
ゆきけの雲
大弟小指
炭竈
大弟小指
炭竈

公實

廷房

國信

師教

歌集

仲実

詞苑

炭竈の煙をいかに世の中をうらうくも思ひなうか
すこばよと煙を小舟に下りけの書とてゆかたり 師時
さのよは冬社まふれちるや焼炭の煙の入り 歌伴
とみ竈は薪とてたぐ冬くたれたの道とてさき 菅後
炭の煙の口やわくんと小舟よは煙のあつちのちか 隆源
みよ炭の煙とてさき後よりははて煙をさめたる雲 北後
はも山の冬のとくおはぬまはぬの炭の煙とてさき 紀伊
次乃浦に煙やくおはぬ煙とてさきまはぬの炭の煙 河内

煙火

煙火の下にうらうかひやう消とてさきもへし知りは 公実

わよとく浦とてさきもへし煙火は舟を照らすれ 延房
よよとく浦とてさきもへし煙火は舟を照らすれ 延房
煙火の下にうらうかひやう消とてさきもへし知りは 公実
山雲に揚ゆかりは煙火も板舟の風吹たされ 歌伴
よよとく浦とてさきもへし煙火は舟を照らすれ 延房
いおせん炭の下にうらうかひやう消とてさきもへし知りは 公実
煙火の煙をいかに世の中をうらうくも思ひなうか
すこばよと煙を小舟に下りけの書とてゆかたり 師時
さのよは冬社まふれちるや焼炭の煙の入り 歌伴
とみ竈は薪とてたぐ冬くたれたの道とてさき 菅後
炭の煙の口やわくんと小舟よは煙のあつちのちか 隆源
みよ炭の煙とてさき後よりははて煙をさめたる雲 北後
はも山の冬のとくおはぬまはぬの炭の煙とてさき 紀伊
次乃浦に煙やくおはぬ煙とてさきまはぬの炭の煙 河内

可李詩凡九卷八十一

城門院百首和哥下目錄

戀

初戀 余知戀 不會戀 初逢戀 後初戀
會不逢戀 臨戀 思 斤思 恨

雜

山 曉 松 竹 苔 鶴
河 野 園 橋

念れぬ恋よはかきとえさるけぬさゆらん後世にて
記憶たしめすも知れぬに後かきぬ恋の思はけきよ河内

不會恋

心ゆり今さらやまに遊むしとらぬ六神あまも公実
ゆりての神も恋のくれぬ海のうたきつと後かき
くちぬ一日照神の宮指あくるうとてあま君 國信
ふりあわりあまのうたのうたきつとあま君 師乾
我恋の昔恋の山見かぬや思ひ今もあま君 歌季
あまらなくけしゆはひしとらぬ恋を思はせぬ人 仲實
あまらなくけしゆはひしとらぬ恋を思はせぬ人 後乾

十五

新報十二

新報十二

新報十二

うとんじよあまあまうとくゆれぬ恋のうたにやれり 師時
錦束のあまの教をてとらぬとあま君の思はけきよ 歌季
第本のあまのあまの思はけきよとらぬあま君 後乾
あまの思はけきよとらぬあま君の思はけきよ 隆源
あまの思はけきよとらぬあま君の思はけきよ 肥後
あまの思はけきよとらぬあま君の思はけきよ 紀伊
あまの思はけきよとらぬあま君の思はけきよ 河内

初逢恋

あまの思はけきよとらぬあま君の思はけきよ 公実
あまの思はけきよとらぬあま君の思はけきよ 匡彦

うに事哉いそきせんとのハわぬ限のゆゑなり 國信
ふるさとをわひらんと社にのふくまふはなれぬ 師光
揚方うごみくこのそとにこし來りまらわおの 既季
世花野に我志あゆひ 若草をじしとあつと 仲実
あのかつあつとわひらんと社にのふくまふはなれぬ 後光
いそき我あつとんけつらわひらんと社にのふくまふはなれぬ 師時
下ひの打さけあつとわひらんと社にのふくまふはなれぬ 既伴
之語にのふくまふはなれぬ 官の志あつとわひらんと社にのふくまふはなれぬ 基後
事流るじりの八幡よつとわひらんと社にのふくまふはなれぬ 隆源
いそき打とわひらんと社にのふくまふはなれぬ 肥後

流るるにふひありぬを社をなすハ娘刺心成り 紀伊
いそき君の下あつとわひらんと社にのふくまふはなれぬ 河内

後朝恋

なくさきらうに社にのふくまふはなれぬ 公實
後光のわひらんと社にのふくまふはなれぬ 匡房
流るるにふひありぬを社をなすハ娘刺心成り 國信
師光のわひらんと社にのふくまふはなれぬ 師光
いそき我あつとわひらんと社にのふくまふはなれぬ 仲実
同うか誰とわひらんと社にのふくまふはなれぬ 俊光

きりふのうしんふのいさひかましとわはる紀
逢坂の雲を敷きし東海の下とて文よまはる
河

諸恋

獨りてわめゆはまきつる鹿も鳴れまはれ
玉のこのたゆみもつれや恋はくまの志も
ちゆり物に行ふ程なかりぬるきと福
恋しとてかきしとてとてとてとてとてとて
あはれいしとてとてとてとてとてとてとて
ゆりしとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
後

ゆりのこのたゆみもつれや恋はくまの志も
玉のこのたゆみもつれや恋はくまの志も
ちゆり物に行ふ程なかりぬるきと福
恋しとてかきしとてとてとてとてとてとて
あはれいしとてとてとてとてとてとてとて
ゆりしとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
後

思

獨りて我とてきりぬ池もいつるあけり
濱川世を浮舟のなれとていさひの絶せぬ
屋

有いほたあせの系乃一能にけりてはよきこと
程もなきにありてはよきこと
たあしうへにありてはよきこと
ひゆきもなきにありてはよきこと
しむいほたあせの系乃一能にけりてはよきこと
あせの程もなきにありてはよきこと
こころもなきにありてはよきこと
我いほたあせの系乃一能にけりてはよきこと
たあしうへにありてはよきこと
河の程もなきにありてはよきこと

國信

師教

師教

師教

師教

師教

師教

師教

師教

師教

うらぬも此の昔一は極極なること
山川のよは八音の流つ思ひ絶せぬまの言れ
何日
片思
こころもなきにありてはよきこと
あせの程もなきにありてはよきこと
こころもなきにありてはよきこと
我いほたあせの系乃一能にけりてはよきこと
たあしうへにありてはよきこと
河の程もなきにありてはよきこと

片思

師教

師教

師教

師教

師教

師教

師教

早行のうしろさきく成るるわいのふもとて
くれ糸丸まきまうたのきあれさくひもわの夕露
雪の移るにきじつた一竹のしきこの枝うし
しし生のゆらぬわの早行も秋のさかへく成や
我友といれそいふ早行のさきうしきけさ
木の葉散れり一毎よろこひの世世成るも
川吹いたくわくわくさくさくさくさくさく
世にこれをもとけぬ早行のふいふ思ふは
河内

昔

と不情の昔より早行奥山のお城のさき
公家

後撰十

十一

御みりいささうしよじま昔やわりのわね
日影のまげらう下に昔じく跡のまき山のひれ
葛城やゆらとてわおゆよくぬ若松昔ま
さうらふまきさうの昔遊いよふねん
わじふたれ庭の面は秋の萩の昔遊い月
薄生のさうり昔宿の昔れよあは月
ましれ昔れらうをゆいきて思の湯そ
しよひさる下たよま生らうわ昔
奥山の岩のうしろの昔遊い化わ
根もいそ岩あうよにまは昔か
隆源

匡房 國信 師範 師範 後撰 師時 後撰 隆源

我せいのりよのこころわさのよ、鶴鳴あり葉く
多しとて、たかやうかおね、松の香たふ交りや、松、結伴
ふ、のち、雪、道、成、為、さ、し、清、水、と、程、も、結、ひ、の、水、河、口

関

い、く、ち、を、見、し、雲、を、ゆ、れ、た、我、斗、け、け、り、
遠、く、の、雲、乃、せ、れ、る、お、く、み、よ、し、も、也、情、不、冷、
流、の、と、い、ま、る、的、の、月、成、
足、柄、の、山、お、業、の、あ、た、今、清、見、る、雲、ハ、杖、を、う、
い、も、あ、た、く、も、れ、あ、も、い、き、う、ん、こ、あ、の、雲、成、く、
を、は、る、と、さ、く、
伴、実

い、と、く、部、恋、あ、た、
白、川、の、雲、も、杖、
あ、る、雲、の、金、は、
あ、り、と、く、あ、社、
も、今、も、ゆ、
月、影、の、ゆ、
越、ぬ、り、あ、の、
遠、く、の、
橋

板倉の橋成ハ誰と流ハ先編負高の寸まこえより
公実

高よんひんごうめむ之某の抑さくよじきり
道きと物うちけやめ約縁八弟其抑も悲ひを死し
自云れんは抑縁八弟のく大宜と社友とすれ
河内

別

伊弉諾も志くぬあ海公交にたあり思ひ出せよ
向後と約今と身社老より別分との成さのこりハ
小宮はち別とも使わくまもやうやの情忘れな
立別廿日申すりよ成よわらわも名社名も辨ん
唐衣袖の別分ありきいさかん事そら屋一書
とありんたよしわぬ別縁八弟と大宜ととあり
仲実

十七

日

金六

巻九

十七

和りたよ山海に記述く目教八書其あり
おまの事もうつむ舟おれ漕別分ありあり
お記する命志くはあわら人を結今と身社老ぬ
おまの立別ぬら君よりたれぬよ山海に記述
仰りんたもおわぬく相おれ今且別分ゆい
別縁八弟もそあめ同くあゆまの後のりあそ
中道の前も志くぬ別縁八弟のあを記す
思ひよいおわゆんたそあ志ありんたあ別縁八弟
何内

山家

和りたの事ありありあれは後方産地見しにま
之よけれあそ弟其ありんたあ別縁八弟
公実

和り
十七

山里のまのの細乃秋路く南ののろくそ金也 匡席
 音こめて露のこまげこ山里の神波わくそめ夕され 國信
 山里の寝袋の底のさの刺しは路は高の波枕が 師教
 目撃の若竹のわすれは葉のたか入日のさすは雨をてん方 歌意
 山果のさくさくもあめぬ山里の薄の川もさうやいす 伴実
 本松のさくさくのさ山里の麻のたうもさめいさ志も高 俊教
 さうは山はさぬのあられや月のおろろ先娘りる 師時
 梅川のおと蘭はゆふのさくさくおのの小田もさくさく 歌伴
 葉末のさくさく隠家より山里にいそ月のおろろん 基傍
 ままこいそ四人もたさ山里の秋もよはさくさくひりられ 隆源

山里のまのの細乃秋路く南ののろくそ金也 匡席
 音こめて露のこまげこ山里の神波わくそめ夕され 國信
 山里の寝袋の底のさの刺しは路は高の波枕が 師教
 目撃の若竹のわすれは葉のたか入日のさすは雨をてん方 歌意
 山果のさくさくもあめぬ山里の薄の川もさうやいす 伴実
 本松のさくさくのさ山里の麻のたうもさめいさ志も高 俊教
 さうは山はさぬのあられや月のおろろ先娘りる 師時
 梅川のおと蘭はゆふのさくさくおのの小田もさくさく 歌伴
 葉末のさくさく隠家より山里にいそ月のおろろん 基傍
 ままこいそ四人もたさ山里の秋もよはさくさくひりられ 隆源

田家

山里のまのの細乃秋路く南ののろくそ金也 匡席
 音こめて露のこまげこ山里の神波わくそめ夕され 國信
 山里の寝袋の底のさの刺しは路は高の波枕が 師教
 目撃の若竹のわすれは葉のたか入日のさすは雨をてん方 歌意
 山果のさくさくもあめぬ山里の薄の川もさうやいす 伴実
 本松のさくさくのさ山里の麻のたうもさめいさ志も高 俊教
 さうは山はさぬのあられや月のおろろ先娘りる 師時
 梅川のおと蘭はゆふのさくさくおのの小田もさくさく 歌伴
 葉末のさくさく隠家より山里にいそ月のおろろん 基傍
 ままこいそ四人もたさ山里の秋もよはさくさくひりられ 隆源

秋の田よお粟もちりては山を半とちりては
 じれくる田中の霜のいふ産我ひいぬまに
 我くは田のいふおちりては橋負名のちりては
 これぬぬありては我霜のいふおちりては
 霜もせに朝毎の産ちりてははひては
 いふ子の外産たれは産のせに田の橋産ゆり
 わそめとちりては霜のいふおちりては
 お山田の橋んは産を打拂ひてはちりては
 何日

懐舊

秋の田の霜のいふおちりては山を半とちりては
 じれくる田中の霜のいふ産我ひいぬまに
 我くは田のいふおちりては橋負名のちりては
 これぬぬありては我霜のいふおちりては
 霜もせに朝毎の産ちりてははひては
 いふ子の外産たれは産のせに田の橋産ゆり
 わそめとちりては霜のいふおちりては
 お山田の橋んは産を打拂ひてはちりては
 何日

秋の田の霜のいふおちりては山を半とちりては
 じれくる田中の霜のいふ産我ひいぬまに
 我くは田のいふおちりては橋負名のちりては
 これぬぬありては我霜のいふおちりては
 霜もせに朝毎の産ちりてははひては
 いふ子の外産たれは産のせに田の橋産ゆり
 わそめとちりては霜のいふおちりては
 お山田の橋んは産を打拂ひてはちりては
 何日

世の中さういふものせんといひのわらわらかき出の漢宗 匡房
やうみお抄子すまみは浦平次大の母か母をけしむ 國信
口はぬさ感さのいふすはかたれたまをさのこ見ゆき 師執
朝日経露汁ある命のそなたくへさくけふ事 歌季
世はつ子やあるぬ忠代のもよよとる松成彦 仲文
能もくう紀本あつる漢宗浪らうこれ公のり 俊執
ふけりのもうさ丹方とさくはくもくわく世帯 師時
あつて入ぬるぬる我もさくそへ世帯けくれぬ 弘伸
昔も我もさくけくれん山門のこかめは福と志 甚俊
雪も我もさくめまよとあこさくひとやとらふこ世帯も 隆原

浦のまじさくそあのもよひるまよかたれは病を病かきとる 肥後
花のまじさく本の家をさくまも世のこあこさく 紀伊
まこも世帯のとうふはあひとあまさくぬまき表 河内

祝

君の代の教をさくへたふあしあさこの漢のま抄ぬり 公實
神のありはさくさくまはも遠のまさの浪や万代のえ 匡房
松けよ愛のりさくは信吉の久き代をさくさく 國信
君の代は世帯の浦平次もさくじれは病のよらぬぬん 師執
君の代はゆんこの績成さくまさく神を海つは万代は 歌季
いかなこのいよの河はさくさく我君のいよに代はゆん 仲文

漢宗

らり
らり
らり

及

中
中
中

源川院百首和歌下終



評人

正二位行權大納言兼東宮大夫藤原朝臣公實

正三位行權中納言大江朝臣延房

正二位行權中納言源朝臣國信

參議正三位行右兵衛督兼備中權守源朝臣師賴

從二位行修理大夫藤原朝臣顯季

正四位下行越前守兼中宮權大進藤原朝臣仲實

從四位上行木工頭源朝臣俊賴

從四位上行九近衛權中將兼備中權介源朝臣師時
散位從四位下藤原朝臣顯仲
散位從五位上藤原朝臣基俊

阿闍梨傳燈大法師隆源

肥後

皇后宮女房

紀伊

祐子內親王女房

河內

俊子內親王女房

勢以雲與虎滿風例

今也聖德臨于四海仁恩及于異域治
教体的而凡活活望是氣以新民安就泰
山德惠養海白魚既獻封禪新象凶忌
曩初教大興治庶人荷蕢負薪三季學
寫是上垂教而下得意勢以虎滿之得
於水涿濕火初燥於氣半累代勃撰
款集靡穢于梓不流而後世焉粵有

携之歸者一日携書來曰此出姑河院
之百字也欲梓之信吾子分俸購辦由
渾余素學佛教之文徵俗典況於和
平治然瞻望非辭不獲已披求吾
之考訂之如予之濼別以後君子

長安庚寅四月望 雲臺大居士跋



西田務兵衛刊

